

## 一般就労を考える



本校を卒業後、家を出てグループホームや拓心館から通勤し、1年ちょっとでアパート暮らしを始めた卒業生がいます。また、卒業後に弘前で数年働き、その後、単身関東に行き大企業（三井関連の会社）に就職、社員寮で一人暮らしを始めた先輩もいます。先輩と一緒に千葉の会社に転職した先輩もいます。卒業後の生活は思っているよりもずっと広がっています。自分で稼いで生活をすることで見える世界があります。ただ、そのためには厳しさも求められます。1つのことを辛抱強く長く続けられますか？今回は、会社に就職した卒業生の様子や会社からの情報を基に“一般就労”を考えてみたいと思います。

### 自分(親)の会社で働ける？

自分の子どもが会社でやっていけるかどうかを考える際、まずは「自分や家族が働く会社で雇えるかどうか」を考えてみましょう。実際に聞いてみると、「やらせる仕事がないから無理」「お客様対応だから無理」などと言う方がとても多いです。保護者の方が無理、心配だと思っているお子さんが、果たして一般の会社で働けるでしょうか？会社は、“社員（戦力）”として雇うのです。

### ナチュラルサポートと仕事を続ける力

学校や福祉サービス利用時と違い、会社では一人だけを常に見守ることはできません。周りの大人たちは、それぞれが自分の業務をこなしながら、その合間にサポートしてくれるのです（ナチュラルサポート）。普段、会社との往復だけの生活では、学校時代のような楽しみはありません。楽しみがないことで精神的に行き詰まる卒業生もいます。学校や親から与えられた楽しみだけではなく、自分で楽しめる（リフレッシュ）力がどれだけあるのかも仕事を続けるためには大切なことです。

### “人ごと”ではなく“自分ごと”として

自分で考えて行動する力はどれくらい育っているのでしょうか？普段、困ったときには周りの大人が「どうしたの？」とすぐに助けてくれますが、会社では“待っていれば助けてくれる”は当然ありません。自分で考えずただ待っていればよい生活から、自分で考え行動しなければならぬ生活に変わるのです。自分から「動く」「伝える」「尋ねる」そして「ルールを守る」ことができればいけないのです。「嘘、ごまかし」「人のせいにする」は勿論のこと、「ちょっとぐらいなら大丈夫・・・」は通用しません。大人がすぐに手を出し助けたり教えたりせず、失敗も経験だと思って見守る場面も必要です。

### 素直に聞いて黙々と。そして、いつでも笑顔で。

会社では社会人（大人）として扱われます。周りは気を遣ってくれ優しくしてくれる場面もあるでしょう。ところが、優しい社員を親や先生と同じだと勘違いして甘え、わがままや不平不満を言ったり、仕事の手を抜いたりした結果、会社で孤立し退職する方がいることも事実です。大人として、社会人として、周りに気を遣い、いつも笑顔で、指示を素直に聞いて黙々と仕事ができる、周りから頼りにされる存在になってほしいと願います。これは福祉就労でも同じです。いつまでも子ども扱いせず年齢相応の経験を積ませるよう、小さな事から始めてみてほしいと思います。

#### 働くための基礎

嫌いな人とも笑顔で挨拶

素直に話を聞き、仕事を続ける

相手によって態度を変えない

「すみません」と言える

#### 在学中からやるべきこと

生活リズムは自分で保つ

場に応じた言葉で話す(敬語)

お金の管理をする(小遣い)

一人でできる・遊べるを増やす

## 相談支援事業所を活用しましょう!

人によっては小学部入学以前から、様々な福祉サービスを利用するために相談支援事業所（以下、“相談”）を利用している方がいると思います。実は“相談”は、高等部卒業後の進路にも係わる大事な役割を果たしてくれているのです。卒業後、施設（就労移行、A型、B型、生活介護、グループホームなど）を利用する場合、役場での手続きのために“相談”でサービス等利用計画を作成する必要があります。幼児のときから本人を知っている担当者がある場合、将来を見据えた進路決定がしやすくなります。小学部からずっとお世話になる“相談”ですから、信頼できる方に担当していただくことをお勧めします。それにより本人が得られるサービスの質は大きく異なるのです。

信頼できる“相談”では、保護者からの「〇〇の施設を見学したい」「体験させてみたい」「卒業後の進路について相談したい」「就労アセスメントをセッティングしてほしい」「〇〇はどうしたらいいのだろう」など、様々な内容に積極的に対応してくれます。担当者によっても左右されますので、一概にどこの“相談”が良い悪いとは言えませんが、子どもの将来に大きく響きますので、どこの“相談”に担当してもらうかは大切なことなのです。“相談”の中には児童の計画のみというところもあります。この場合、18才からは別の相談のお世話になることとなりますので注意が必要です。“相談”は一度決めたら変えられない訳ではありませんのでご安心を。

## 余暇活動の充実のために

**余暇活動とは、生活に必須な食事や睡眠、身の回りの用事などの基本的な活動(1次活動)や、仕事や家事などの労働(2次活動)以外で自由に過ごすことのできる時間(3次活動)のことを言います。**

近年、余暇活動に対する認識は、仕事を離れた「休養」、「骨休め」として捉える消極的なものから、自己の可能性を試し、新しい自分を発見する場として多種多様な活動を行うなどの積極的な意義を有するものになってきています。余暇活動は、まさに人間が本来の人間性を取り戻すための価値ある活動といえるのではないのでしょうか。

青森県社会福祉協議会の広報誌『福祉のひろば』に本校卒業生（H30）のインタビュー記事が掲載されました。彼は10歳からドラムを習い始め、現在でも週1回のレッスンを受けています。地元でバンドを結成し、在学中から様々なイベントにも多数参加し、練習の成果を発揮していました。また、セレジェイラFCというサッカーチームにも所属し、余暇の充実を図っています。学校生活とは違い、仕事は楽しいことばかりでなく、辛くて苦しい場面にぶつかることも多々あります。彼の過ごす日々を考えると例え仕事が辛くても、余暇活動の充実によって心が豊かになり、生活自体が安定しているのではないかと思います。

保護者の方々の協力なしには難しいのですが、本校卒業後も、自分らしく生きていくための糧になるような活動があることは、その先の長い人生を考えると、とても有意義であると言えます。

